

メカジキの流通対策

水産業改良普及センター 鹿熊 信一郎

1. 背景と目的

小笠原で開発されたメカジキのリング漁法が沖縄に導入されている。ソディカ漁具の餌木をリングに替えるだけでメカジキ漁はできるため、今後、メカジキの漁獲量は増えると予想される。このため、県内市場の価格が下がる恐れがある。糸満では、1隻が1回で20～30本メカジキを水揚げすることもあり、そうなると沖縄ではさばけない。かつ、県外出荷のルートは、まだ十分確立されていない。

メカジキはマグロ等と比べて鮮度が長く持つと言われる。沖縄の利点は、週1回しか出荷できない小笠原と比べ、鮮度のよいメカジキを、頻繁に、かつ短期間で出荷できることである。

メカジキの県内市場における価格は安いが、沖縄ではメカジキを刺身や焼き魚で食べる地域は少なく、天ぷら材料にする地域が多いいためと考えられる。

県内価格の維持・向上のため、鮮度保持、延縄船の漁獲物との差別化、刺身や焼き魚としての需要を増やす。また、県外市場の開拓のため、航空機輸送（品質の良いもの）の増、船舶輸送方法の開発を急ぐ必要がある。

2. 方法

- 1) 冷蔵コンテナを利用した船舶輸送方法を検討した。
- 2) 糸満漁協内で、マグロ・カジキ類流通研究会の設立を支援した。
- 3) メカジキの県外・県外市場における

価格などを調査した。

4) 漁船漁業ビジネスモデル研究会の幹事会に出席し、沖縄のメカジキ漁業振興への支援を依頼した。

3. 結果

1) 冷蔵コンテナを利用した船舶輸送

沖縄のメカジキ漁獲量の約3割を占めると言われる中物カジキを、船で名古屋等へ出荷できないか、漁業者、糸満漁協、糸満や名古屋の仲買を含め検討した。

現状では、マグロ類は那覇—鹿児島間を毎日船舶輸送されている。この輸送に使うコンテナ（約170×130×70cm、魚1トン収容可、断熱性に優れ1～2日は中の氷が溶けない）は、鹿児島魚市が特注したもので、見積をとったところ、1基75万円だった。糸満で発注すれば、少し安くなるだろう（67万円？）。



水産課の補助事業を利用して、糸満漁協がこのコンテナを4基作り、輸送試験を実施できないか調整したが、実現しなかった。

沖縄の毎日急行とメカジキの船舶輸送

について調整した結果、当初は混載による仙台までの輸送費がキロ 65 円と提示されたが、様々な問題が出てきて、この条件では輸送できないことが判明した。メカジキを 30kg 程度にカットすれば輸送は簡単だが、そうなると「箱もの」と呼ばれる気仙沼産のメカジキと競争することになり、価格はキロ 400 ~ 500 円に下がってしまうようだ。

結局、船舶による輸送試験は、平成 24 年度には実施できなかった。

2) マグロ・カジキ類流通研究会

8 月 3 日、糸満漁協でマグロ・カジキ類流通研究会の設立準備会が開かれた。メカジキの航路出荷および県内販促を主な目的とする研究会である。現在メカジキ漁を行っている人、これからやろうとしている人、仲買が十数名集まった。

私からパワーポイントで流通の現況と課題を説明した後、城間参事から規約案の説明があった。補助事業によるコンテナの利用とともに、県内販促にも取り組んでいくことになった。

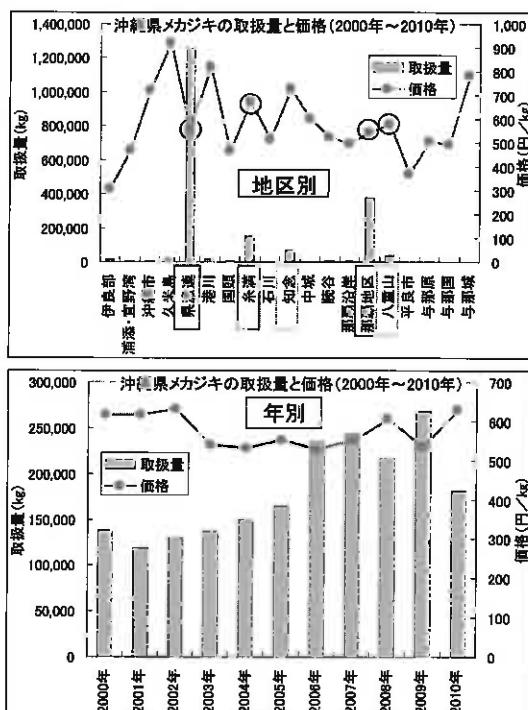
3) 県外・県外市場における価格等

築地市場では、平成 19 ~ 23 年度の生鮮メカジキの平均価格は 1,326 円だった。月別には春・夏が高く、秋・冬が安かった。取扱量は秋から冬に多くなる。この傾向は、気仙沼の漁獲動向に左右されるようだ。近年、価格は上昇傾向にあった。

2000 年～ 2010 年の水産試験場漁獲統計では、沖縄におけるメカジキの取扱量は、県漁連と那覇地区漁協が圧倒的に多かった。延縄船の漁獲量が多いためである。続いて、糸満、知念、八重山が多く

った。これらの漁獲量には立縄のものが含まれる。平均価格はキロ 600 円で、築地の半分以下だった。糸満の価格は、県漁連より約 200 円高かった。

最近、漁獲量は増加傾向にあるが、価格は横ばいである。取扱量は夏に少ないが、価格は季節によって大きな違いはなかった。



4) 漁船漁業ビジネスモデル研究会

7 月 11 日、幹事会にオブザーバーとして参加し、沖縄のメカジキ漁業について発表した。水研の開発センターは、東北でメカジキの調査を実施したことがあり、幹事を含む参加者の関心は高かった。開発センターの傭船調査を含む研究会としての本格的な調査を、沖縄のメカジキを対象として実施するのは、沖縄側の受入体制の面もあり現時点では難しいと考えられる。当面、現在 2 つある専門部会のようなものを立ち上げてもらい、研究会がもつ情報を提供してもらう方向がよいと考えられる。